



養徳寺だより

第77号

養徳寺 〒915-0824 福井県越前市武生柳町 4-33
TEL 0778-22-3889 FAX 0778-22-3859



ホームページも、ぜひご覧ください。
「養徳寺だより」も見てください。

養徳寺

検索

<行事案内>

元日会	令和八年 一月一日(木)	午後一時
除夜会	十二月三十一日(水)	午後十一時半
研修旅行	十月十九日(日) (金沢方面)	
報恩講	十月二日(木) 建夜 午後二時 初夜 午後七時	
法話	称名寺住職 佐々木和則師	午前十時
法話	宝光寺住職 楠秀峰師	
イベント	法話終了後 「ほおのき」代表 北西妃都美氏 丹南地域の民話など創作紙芝居	

養徳寺の由緒について

養徳寺住職 出雲裕樹



7月13日の夏季永代経法要にて、養徳寺の歴史について講話いたしました。要約を記載いたします。

出雲路山 養徳寺の由緒について、「武生市史」によると『南条郡広瀬村にあった真言宗の総霊場太子堂養徳院が、永正5年(1508)、蓮如上人の直弟 正闡坊(しょうせんぼう)善鎮の四男善順を住職に迎え改宗、養徳寺と改称した。その後、第二代善好が永禄八年(1565)安養寺村へ移転、真宗東西分派の際大谷派に所属したが、第三代 善慶が慶長7年(1602)府中へ移転、本願寺派に所属し院家を授けられた(大意)とあります。本願寺第八代 蓮如上人は、文明3年(1471)越前に下向、吉崎を拠点とした布教活動の結果、北陸地方で浄土真宗が広く発展し、浄土真宗の「中興の祖」とされています。当時広瀬にあった養徳寺も、この機に他の多くの寺院とともに本願寺に改宗したと考えられます。

その後安養寺に移転、信長による朝倉氏滅亡や一向一揆鎮圧など、戦国の動乱期を経たのち、江戸初期、本願寺の跡目争いに端を発する東西分派の影響が全国の寺院・門徒に波及した折、本願寺派に属し、1602年に現在の地に移りました。(現在も越前市安養寺町には真宗大谷派の養徳寺が存在します)以降、多くのご門徒に支えられながら、歴代の住職が受け継ぎ、現在私で第十七世を数えるまでに至っております。

☆お亡くなりになられました門徒様

(令和六年九月〜令和七年八月)

奈良美子さん 六十才 鯖江市

鎌谷英雄さん 八十才 越前市

山内静子さん 八十六才 越前市

岩本敏弘さん 七十八才 福井市

大久保ややさん 八十六才 南越前町

金子進さん 九十才 越前市

土田カズコさん 九十四才 越前市

猪口ふさ子さん 九十四才 越前市

川田トシ子さん 九十五才 越前市

川田栄一さん 六十九才 越前市

しおり 心の葉

安野龍城師(専心寺前住職)からのお便り

前略、「免下さいませ。」「養徳寺だより76号」拝見致しました。色々活躍、慶賀の極みです。小生の句集「四谷柿」の紹介までして下さい。厚く御礼申し上げます。小生、悪性リンパ腫といつことで、県立病院に入院加療中です。難しい病気で中々、うまくいきませんが、頑張つて治療を続ける予定です。合掌



専心寺の門

北國街道今庄宿散策

雛の会 末永富士子



七月六日九時半、七名の参加の暑い中での出発でした。今庄駅で語り部の方と合流し今庄宿へ、昔は北陸随一の難所、この地を行き交う旅人はここで疲れを癒して峠を越えていたとの事、また今何百年と店を継がれ守られているお店があるなど、丁寧な説明をお聞きして今庄宿の魅力を感じることが出来ました。明治天皇が宿泊された明治殿の中で写真をパチリ、語り部さんから「今後十年は長生きされますよ」とちよと複雑な気持ちに...その後、旧京藤家へ。江戸時代に酒造業を営み、尊王攘夷派の水戸天狗党の一行が宿泊した資料や幕末の歌人・橋曙覧や公卿の岩倉具視の書などが残っていました。散策を終えて十二時に民家レストラン「うお座」へ。豪華なお刺身定食、庭を見ながら美味しく頂き、お腹いっぱいになり、また近くの甘味処「てまり」で白玉ゼットと珈琲を頂きました。甘いものは別腹と言いますが(笑)元気が出ました。特産のお土産を買い求めるなど楽しい一日、どうもありがとうございました。

夏まつりに初めて参加して 雛の会 山田和江



八月十七日「夏まつり」が開催されました。今年は例年以上に暑さが厳しく、当日も35度を超える猛暑となりました。真夏の陽射しが照り付ける中、多くの御家族連れや地域の方々が大勢来場されました。子供、ゲームコーナーでは、射的やスーパースポーツ、ボール投げなどが設けられました。飲食コーナーでは焼きそばやフランクフルト、かき氷などの定番メニューに加え、キッチンカーも登場しました。お楽しみ抽選会ではお引き抽選が行われ賞品は嬉しいものもありました。子供たちの笑顔と歓声が境内に響き渡り賑やかで心温まる夏まつりとなりました。また余興として披露された鼓衆会触れ太鼓の力強い響きは境内に活気をもたらし、続いて披露された加賀山流民謡では、張りのある情感豊かな歌声が会場を包み込みました。義母に誘われ初めて夏まつりに参加する機会をいただきました。「来年はどんな風にしようか、今から考えているんや」と笑顔で語られたお言葉が心に残っています。



ひとこと

終戦に想う 三田村澄江

昭和十六年、私は国民学校初等科に入学。その年の十二月八日に太平洋戦争が始まりました。日本が勝ち進んでいる時は日の丸の国旗を持ち雪道を歩いたこと、また警戒警報のサイレンが鳴ると「そろばん」を持って山の中へ逃げた記憶があります。



終戦の年の七月十九日、福井空襲の時にはサイレンが鳴ると同時に灯りが消えてしまい、焼夷弾が投下された福井の方はまるで花火を見ているように明るく、子供ながらに足が震えました。今は何でも手に入る時代ですが、当時は「欲しがりません勝つまでは」と言う言葉が普通でした。終戦後、しばらくは飛行機の音が聞こえると「また空襲...」と怯えたものです。また戦後の食糧難のときには町の人々が田舎へ着物などを持ってきて「米と交換して欲しい」と言う人たくさんおられたと母から聞きました。そして当時は学校給食もなく弁当を持っていって行く時代、「白米は贅沢」と言うことで弁当の検査がありました。学校近くの人は自宅に帰りおかゆを食べ、家庭を耕して芋を植えたり、田んぼでイナゴを捕まえて佃煮などにして腹を満たしました。

今、世界は平和ながらも至る所で紛争が起き、幼い子供たちをも亡くしています。正しい戦争などある筈がありません。これからの若い人へ、戦争は絶対してはいけません。

おしらせ

★墓地部より

★総墓の進捗状況



平成十年に墓地使用契約書類を各門信徒様に送付してあります。世帯主(墓地継承者)の変更がありましたら、お手元の書類をご確認の上、寺へ届けてください。どうぞよろしくお願い申し上げます。



▲令和七年八月十五日現在

俳句・川柳談義

後夜かけて源氏再読明早し

潤子

すすき穂は囁く風に揺れ応え

幸只

ホームラン打てば夏空武者兜

貞子

七十一歳二人励まし猛暑越え

仙一

青稲穂雨降り注ぎ一息つき

栄雄

風そよぐ南部風鈴錆びてなお

千恵子

落ち武者の記が辻に槿花

美穂

薄ごろも遺影の母の笑みかすか

邦子

雲飾りの破風に月寄す新総墓

康男

サイダーの泡のあるうちのを言へ

啓治

スッピンでゴミ出し御近所あんだれ

空似

養徳寺だよりでは俳句、川柳、短歌などを募集しております

総代責任役員 小林 幸只
鯖江市紀町 44 号 28 番地

ろうそく・香・沈香・線香・念珠
小川竹風堂
☎ 0778 (22) 3192

仏壇・仏具・おすすし
北荘仏壇店
鯖江市深江町 10-4 ☎ 0778 (51) 4476

Ys home
株式会社 ワイズホームサービス
越前市三ツ口町 125-8 ☎ 0778 (43) 5002

包丁・鎌・鋏・園芸用具・工具
刃物プラザミズカミ 水上仙助商店
越前市東千福町 7-4 ☎ 0778 (22) 1524

LP ガス・灯油・給排水設備工事
株式会社 テクノ永谷
越前市国府 2 丁目 12-7 ☎ 0778 (24) 1868

墓碑・建築用石材
有限会社 増谷石材本店
越前市武生柳町 6-2 ☎ 0778 (22) 1148

東京海上日動代理店
(株)アシスト・タニグチ
タニグチ保険事務所
越前市南 2-2-8 ☎ 0778 (22) 2713